

みんなで作ったたんけつの証。

絹ぎむ教育学校二年一組 渡辺 太智

ぼくの学校は、見わたすかぎり田んぼに囲まれ、毎日友だちと一しょにスクールバスに乗って登校しています。

朝、おはようございます。と、運転手さんにあいさつして決められた席にすわり、出発後のまどから見える景色は、まるで広大なサツカー場みたいであの上でブレーできたらしいなあと思います。

六月のはじめ、ぼくは田んぼアクトにさんかしました。大ぜいの人たちが集まり、係の人の説明後、初めてはだしになってとけたチヨコレートのようなドロドロの田んぼに右足をそうとう入れてみました。すると、地ぬんに足を入れたのにまだまだ下にしずませないと固い所まで足がとどかなくて思い切った力強くふみこんでみました。バスのまどから見た風にゆれたきつちりつまった苗の下は、こんないやわらかいとは思えうとちがっておどろ

きました。

苗のかたまりから三本ずつ根をはがすようにとり、苗がおれないようにやさしくふろいな土の中へ植えました。みんなで一しよに横一列に並んで一歩ずつ前へ植えるたび、まだ小さな苗をふまないようにしました。田んぼのはじまできたときがゴールでした。田んぼから上がって後ろをふり返ったら、ぼくの植えた苗の先が見えたり見えなかつたりしていたのでちゃんと周りを一しよに育つか心配でした。

まりませんでした。

今朝の朝ごはんの中心は、真白で、たまたまのいい香りのするごはんがお茶わんの中で光っています。毎日見えてきた。お米の一粒一粒の中には、みんなで力をあわせて前へ進んで植えた団結の証なんがと思ってお米の大切さを知ることができました。来年はオリンピックで外国人が多く来ます。おいしい日本食を届けたいので、このゆたかな自然を守りつづけたいと思います。